

小島蔵書の概要と紹介



商学部教授 森本 達夫

本蔵書の寄贈者小島達雄先生は1927年生まれである。1949年京都大学文学部フランス文学科に入学。在籍中1950年から劇団「テアトロ・トフン」文芸演出部に所属して演劇を始められるようになった。同大学大学院の研究奨学生の際には演劇に情熱を燃やして本格的に活動されるようになり、また大映の映画脚本部スノブシスやラジオドラマの台本も手がけられた。1954年には「京都ドラマ劇場」演出部に移籍して、俳優として舞台に立たれることもあった。1958年4月本学経済学部専任講師に就任され、以後、大学・学院の数々の重責を果たして本学のために力を注がれると同時に、一貫して演劇活動を精力的に続けられた。3回の海外留学の際（1967年9月～1968年10月、1983年4月～1984年3月、1990年5月～8月）にも「古典の現代的上演、ヨーロッパ現代演劇の動向」を研究テーマに東西ヨーロッパのほとんどの主要都市での演劇動向（演劇やオペラ）を見聞・調査され、各国の演劇人との交流を深められた。1996年3月関西学院大学名誉教授の称号をうけて定年退職された。

小島先生は実際に劇団に所属し、西洋古典劇の現代的上演や現代前衛劇の演出等に関わっておられたこともあって、収蔵されている蔵書には大きな特徴がある。先生のご研究は、文学的な戯曲研究というより、舞台化の角度からの演劇研究というのがその基本姿勢であった。例えば、フランス文学科の学部生対象のモリエール戯曲の講読では、先生は舞台の変化や俳優の動きを克明に描写して、学生たちが戯曲を舞台として受けとめることを重視され、わたし自身受講した大学院の「フランス前衛劇研究」は戯曲史的観点からではなく、むしろ演出史の観点からのものであった。難解なJarryやArtaudの理論書を読み解きながら、その実際の反映例として様々な演出家の舞台を豊富な舞台写真等を使って紹介し、フランス前衛劇の流れを理解させるという形のものであった。そんなこともあって、先生の蔵書には、各劇作家や作品の上演史や上演された舞台の記録、舞台写真、劇評集、演劇論、演出論などが数多く集められており、また演技の問題にも関心をもたれていたため、各種の演技論関係書も多い。いわば、フランス演劇のための蔵書というより、演劇そのもののための蔵書というべきだろう。蔵書は仏書と和書がある。

小島 達雄（こじま たつお）

関西学院大学名誉教授



1927年滋賀県に生まれる。第三高等学校、京都大学文学部フランス文学科を通じて伊吹武彦教授に師事。学生時代から京都で演劇活動、特に演出活動始める。1952年日本演劇学会関西支部発足とともにその事務局長として支部長山本修二教授を補佐し、のち同学会理事として学会活動を続ける。一方、1958年関西学院大学経済学部の専任講師に就任。1962年同助教授。1970年同教授。この後、1978年から1982年までの間学生部長として学生施設整備充実計画を担当し、その推進に努力。1990年以降は新学部設立のための検討委員長、1992年からは新学部担当の常任理事として新学部設立準備室長を務め、三田校地と総合政策学部の開設に尽力。1996年3月定年退職。同5月兵庫県教育功労賞を受賞。この間にも演出活動の他、戯曲の翻訳や脚色上演などの仕事も並行して続ける。近著に『ユダヤ人大虐殺と〈演劇〉』明石書店。1996年。『モリエールと〈状況のなかの演劇〉』関西学院大学出版会。2001年等がある。

その主要な収蔵本を仏書の方は四つのグループに、和書は三つのグループに大別して紹介する。

フランス語関係

A. Molièreを中心としたフランス古典劇関係

- ① Molière全集：Grands Ecrivains版及びCopeau編集のCit  des Livres版の全集は非常に貴重なもの。他に、Pl iade版もMoli re研究には必須の文献であろう。Moli reの現代的演出を考える場合、Copeau版の各戯曲に対する注釈は重要な意義を持つといわれている。
- ② フランス古典劇関係の理論書や古典劇の上演に関する研究書の他、Moli re研究書の重要なものはほぼ揃っている。

B. フランス前衛劇を中心とした現代演劇関係

- ① 全集：Curel、Lenormand、Claudel、Rolland、Pirandello、Romains、Salacrou、Vildrac、Anouilh、Artaud、Vitrac、Sartre、Camus、Ionesco、Adamov、Beckett、Genet、Arrabal等の他に、Brecht全集やHavel、Mrozek等の東欧戯曲の仏訳書等。
- ② Jarry、Artaudの研究書をはじめとするフランス前衛劇の研究書が網羅されている。先のMoli re研究書とともに非常に貴重な文献が多い。



名舞台写真集（第6巻）



演劇雑誌4タイトル

C. 演劇史・演劇論・演出論・演技論・舞台関係

西洋古典劇の現代的上演や前衛劇の演出という実際的な仕事に関わられたゆえに、名演出家・名優（コポー、ジュベ、パロー、ヴィラル等）の著書や彼らについての研究書の他、Collection 《Mises en scène》やCollection 《les Voies de la Création théâtrale》のような名舞台の記録集（演出ノート）、舞台写真集や舞台装置等の資料が豊富である。また、欧米の演技論論争史をも研究テーマとされていたので、様々な時代の俳優の回想録や演技論も数多く集められている。



1935年以降の代表的舞台装置写真集（全2巻）

D. 雑誌関係

- ① *Revue d'Histoire du Théâtre*（フランスの演劇史学会機関誌 1952年～1993年）
- ② *Cahiers de la Compagnie Renaud-Barrault*（第二国立劇場・ルノー＝パロー劇団の機関誌 1953年から全冊）
- ③ *Théâtre Populaire*（第三国立劇場T.N.P.の機関誌 1953年から全冊）
- ④ *Théâtre en Pologne* フランス語版（ポーランド演劇の紹介 創刊号から1990年まで）

上記4点は再入手の非常に困難なもので、日本では希少価値があるだろう。

他に、1960年～1980年代の *Avant-Scène*、*Paris-Théâtre*、*Revue du Théâtre*（いずれも、当時上演中の現代戯曲および舞台・俳優などの紹介・批評を掲載した雑誌）等多数。

日本語関係

戦後日本で公刊された各種戯曲全集・演劇雑誌・演劇講座・翻訳戯曲全集・研究書の主要なものはほぼ網羅されている。

A. 戯曲全集

- ① 日本戯曲全集 ② 世界戯曲全集 ③ 近代劇全集 ④ 現代日本戯曲大系 ⑤ 新選現代戯曲 ⑥ 現代世界戯曲選集 ⑦ 現代世界演劇 ⑧ 現代フランス戯曲選集 ⑨ 今日の英米演劇 ⑩ 現代アメリカ戯曲選集 ⑪ ギリシア悲劇全集 ⑫ ギリシア喜劇全集 ⑬ 古代ローマ喜劇全集

その他、個人劇作家の全集としては、シェイクスピア、モリエール、ラシーヌ、ブレヒト、ベケット、イヨネスコ、ミラー、ウィリアムズ、デュラス、ピンター、森本薫、安部公房、宮本研等、他に個別戯曲多数。

B. 研究書・講座・事典

（日本・世界・各国の）演劇史、演劇理論、演劇の実際関係の各種講座や個別研究書の他、特にソヴィエト演劇・スタニスラフスキー関係の研究書が多い。事典・講座として①演劇百科大事典（全6巻）②演劇講座 ③演劇論講座 ④現代演劇講座 ⑤現代演劇 ⑥日本の芸談 ⑦てすぴす双書 ⑧文庫クセジュ（演劇関係）等

C. 雑誌

- ①『テアトロ』（戦後の全冊、戦前のものも多数集められている） ②『悲劇喜劇』（全冊） ③『新劇』（全冊）

その他、数種の演劇雑誌や各種雑誌の演劇関係特集号を含む。

森本 達夫（もりもと たつお）

関西学院大学商学部教授（フランス語担当）

専攻はフランス現代演劇。パリ第三大学博士（演劇学）。著書 *Fonctions du rire dans le théâtre français contemporain* (A.-G. Nizet, Paris, 1984) がある。